

第Ⅱ章 都市の目標

1. 都市づくりの理念

第4次浦添市総合計画（以下「総合計画」という）は、その基本理念を人間尊重、自立、平和とし、「てだこの^{まち}都市・浦添」を理想都市像としている。これは、全ての市民が太陽のように光輝く、活力あふれる平和で豊かな住み良いまちの実現を目指し、掲げたものである。

都市計画マスタープランでは、これらを踏まえて、都市づくりに関わる理念を以下の5つとする。

1. 『先代から受け継いだ歴史・文化遺産を守り育て継承する。』
2. 『優れた自然環境を保全育成し、豊かな都市環境形成に向けて活用する。』
3. 『住、商、工、観光、交流など高次機能を備えた都市への成長を図る。』
4. 『住民が誇りと愛着をもてる街づくりを推進する。』
5. 『全ての人に優しく安心して住める街づくりを推進する。』

2. 将来都市像

都市計画マスタープランにおける将来都市像は、これまで本市の総合計画で示されてきたまちづくりの目標「太陽とみどりにあふれた国際性ゆたかな文化都市」を踏襲するとともに、4つの将来像を明示し、その実現に向けて各施策を展開するものとする。

まちづくりの目標

「太陽とみどりにあふれた国際性ゆたかな文化都市」

都市の将来像

- ① まちなみに優れ歴史の薫る文化都市
- ② 緑・海・川など自然にあふれた環境調和都市
- ③ 活気にあふれた産業・交流都市
- ④ 安心安全で安らぎに満ちた快適安全都市

3. 目標年次及び人口フレーム

(1) 将来人口の推計方法

都市計画マスタープランの将来人口の推計は、上位計画との整合性を確保するため、第4次浦添市総合計画および那覇広域都市計画区域マスタープランにおける算出方法を参考とする。

また、都市計画マスタープランにおいては、概ね20年後の将来像に向けて方針を示すものであり、将来人口についても、概ね20年後である平成42年を目標年次とする。

■都市計画マスタープラン将来人口（平成42年）

人口フレーム算出については、以下のとおり、コーホート要因法*によるすう勢的な人口と政策的な取組みによる人口増加を加算したものとする。

すう勢的な人口

（統計的手法に基づく人口の推計）

※コーホート要因法

+

政策的な取組みによる人口増加
（見込み）

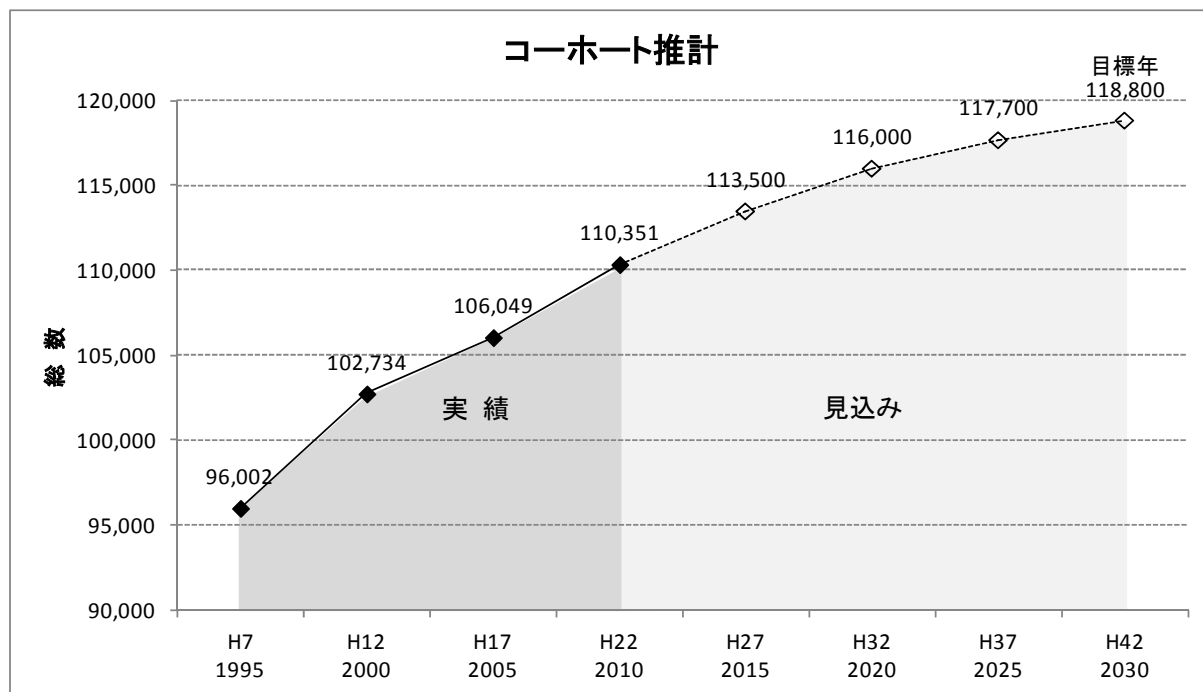
※浦添第一土地区画整理事業、浦添第二土地区画整理事業、牧港補給地区跡地利用、（仮称）浦西駅周辺地区市街地整備の計画人口を扱う

* コーホート要因法…国立社会保障人口問題研究所や市町村などで広く用いられている人口推計の手法である。コーホートとは、ある年（またはある期間）に出生した集団のことであり、コーホート要因法は、その集団ごとの時間変化を4つの要因（出生率、生残率、純移動率、出生比率）をあてはめて、人口の変化を推計する方法である。

(2) すう勢的な人口推計（コーホート結果）

以上の設定条件のもと、コーホート推計を行ったところ、以下の結果となった。

目標年次である平成 42 年時点においては、平成 22 年人口から約 8,500 人増加し、118,800 人とする。



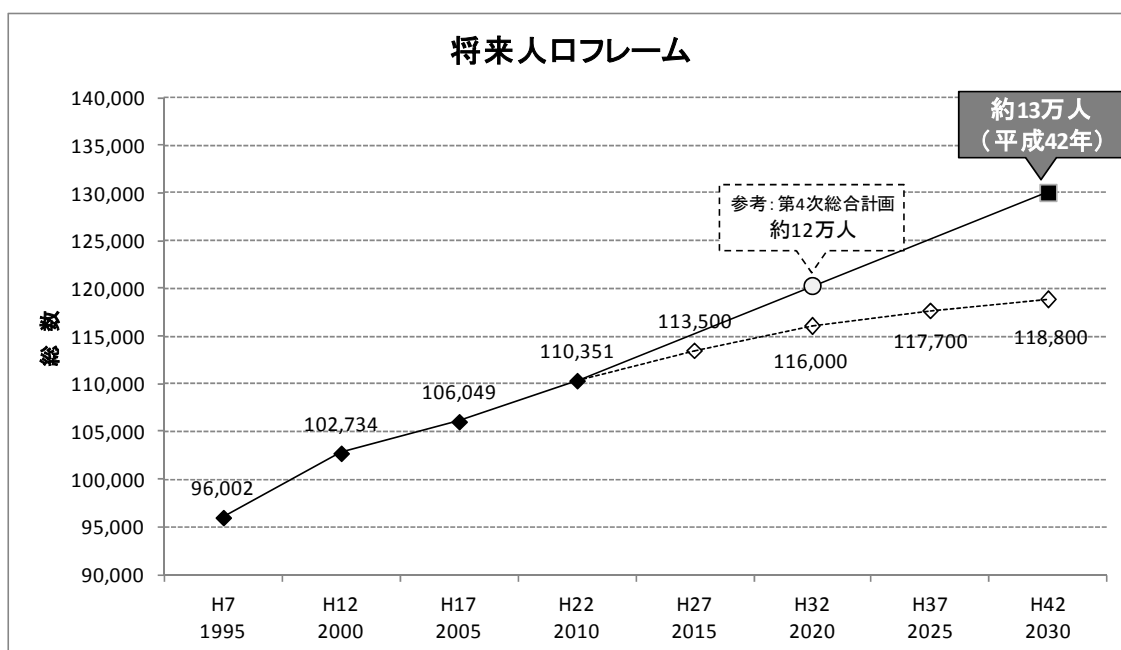
(3) 政策的な取組みによる人口増加の推計について

政策的な取組みによる人口の増加については、浦添第一土地区画整理事業、浦添第二土地区画整理事業、牧港補給地区跡地利用、(仮称) 浦西駅周辺地区市街地整備の計画人口を勘案し、14,700 人とする。

(4) 将来人口推計

以上より、すう勢的な人口推計と政策的な取組みによる人口増加を合計し、浦添市都市計画マスタープランにおける将来人口を下記の通り、**約 13 万人**とする。

	平成 42 年時点
①すう勢的な人口	118,800 人 ※コーホート要因法による
②政策的な取組みによる人口増加（見込み）	14,500 人
③将来人口（①+②）	約 13 万人



4. 将来都市構造

将来都市構造は、“面”としての広がりを持つ「土地利用ゾーン」と、“点”として商業・業務や歴史文化、交通などの各種機能が集積する「主要都市機能」、さらに、“線”として市域の土地利用ゾーンと主要都市機能や近隣市町村を結び、都市活動を支える「都市軸」の3つで構成される。

土地利用ゾーンとして、上記の国道58号や国道330号を中心とする中南部都市圏の広域都市軸（南北都市軸）と浦添都市軸（東西都市軸）の結節点にあり、今後の浦添の中心地として位置づけられる都心ゾーン、西海岸におけるリゾート・レクリエーションゾーンや港湾・流通・情報ゾーン、浦添城跡、伊祖城跡を中心としたウラオソイ交流ゾーン、牧港補給地区における新都市形成ゾーンなどを配置する。

また、商業・業務拠点や歴史・文化拠点、総合交通拠点など、これら各ゾーンを補完する主要都市機能の配置を行う。

さらに、上記、南北都市軸と東西都市軸以外の都市軸として、県道153号などにおける歴史・文化軸、本市の丘陵地に広がる緑地帯（クサティ森*）などで構成される水と緑の環状軸を位置付けする。

（1）土地利用ゾーン

①都心ゾーン

（仮称）前田駅から国道58号に至る浦添西原線沿いは、行政、文化、商業、スポーツ・レクリエーション等の施設が数多く立地し、市役所やカルチャーパークなどの中枢機能が集積する学習交流拠点、屋富祖通りなど商店街や近隣商業施設が立地する商業業務拠点、浦添城跡を中心とした歴史文化拠点、（仮称）前田駅が位置するゾーンである。

このゾーンにおいては、「てだこ都市文化」を発信し、ヒト・モノ・情報が行き交う浦添市の顔として、それぞれの拠点の整備を図るとともに、（仮称）前田駅の整備を促進し、ゾーンへのアクセスの向上に努める。本市のシンボルロードの一端を担う浦添西原線は、良好な景観形成を図るとともに、賑わい空間の創出や、豊かな緑陰で被われたゆとりある歩道の確保などを促進する。

②ウラオソイ文化交流ゾーン

浦添城跡、伊祖城跡、浦添大公園一帯の歴史文化拠点、沖縄国際センターを中心とした国際交流拠点、及びカルチャーパークが立地する学習交流拠点が位置するゾーンである。

このゾーンにおいては、さまざまな市民活動が展開する交流空間として位置付けられ、交通結節点として（仮称）経塚駅、（仮称）前田駅の整備促進を図るとともに、駅周辺市街地の質の向上を促進する。また、世界遺産登録に向けて、浦添グスクの復元に向けた取り組みを推進するとともに、浦添城跡や伊祖城跡周辺の緑地や市街地をバッファゾーン*とし、良好な景観形成と、緑と水の環状軸と一体となった豊かな緑地の保全・育成を図る。

* クサティ森…安心してよりかかれるものという方言の意。かつて私たちの祖先は、集落を台風から守り、飲料水を確保することなどを考えて、小高い森を背後とした傾斜地に村を形成した。自然の森に守られ、その恩恵に浴して日常生活が営まれていたことから、先人たちはこの森を「クサティ森」と称し大切にしてきた

* 世界遺産におけるバッファゾーン（緩衝地帯）…世界遺産の効果的な保護を目的として、資産を取り囲む地域に、開発規制などを敷くことにより設けられるもの。（出典：世界遺産条約履行のための作業指針 ver.2005/ユネスコ/文化庁訳）

③生産ゾーン

港川から牧港の臨海部にあり、工場が集積する地域と、牧港漁港や養殖場など水産業を中心としたゾーンである。このゾーンについては、工業や水産業の生産基盤の向上を図るとともに、周辺住環境や自然環境との共生が図られるようゾーン南西側に位置する緑地帯の保全を図り、水と緑の環状軸を補強する。

④リゾート・レクリエーションゾーン

屋富祖、城間地先の海岸域から空寿崎までのサンゴ礁の発達した海域ゾーンである。このゾーンは、那覇港港湾計画において、浦添ふ頭コースタルリゾート地区として位置づけられており、本県の国際観光交流拠点の形成に向けて、牧港補給地区跡地利用と連携を図るとともに、豊かな海域環境を保全しつつ、マリナ、緑地、ホテル等の施設を配置し、国内外に通用する長期滞在型リゾート拠点の形成を図る。また、空寿崎一体については、豊かな海域環境を活用した環境学習の場や市民の憩いの場の形成を図る。

⑤港湾・流通・情報ゾーン

那覇港浦添ふ頭を中心としたゾーンである。このゾーンにおいては、浦添ふ頭の拡充による国際航路ネットワークの強化や、西海岸道路、臨港道路の整備促進などにより、人、物、情報等多様な交流が促進されるゾーンの形成を図る。

⑥新都市形成ゾーン

牧港補給地区と国立劇場おきなわを中心とした文化交流拠点を含むゾーンである。牧港補給地区の返還を促進し、西海岸埋立区域等と連携した本市のまちづくりを牽引する地域として、隣接する海や国立劇場おきなわを活かしたリゾートコンベンション産業、文化産業、健康・医療産業等の集積や、都市的利便性を活かした快適な居住空間の形成、シンボルロードの形成などを図る。

⑦交流ゲートゾーン

(仮称) 浦西駅を中心とし、浦添都市軸である浦添西原線と沖縄自動車道が交差するゾーンである。このゾーンにおいては、沖縄自動車道西原ICや整備が想定される新たなICとの交通結節点としての利便性を活かし、パークアンドライドなど交通施策を展開し、隣接市町村や中北部圏域、周辺大学との連携強化を図るとともに、観光サービス機能をはじめ、防災機能や交流機能の充実、良好な景観形成により、本市の新たなゲートゾーンの形成を図る。

(2) 主要都市機能

①学習交流拠点

市役所をはじめ、図書館、美術館、てだこホール等が立地するカルチャーパークと、運動公園などが集積する拠点であり、各種行政サービスや文化活動、スポーツ・レクリエーション活動などを行える、快適で利便性の高い学習交流環境を整備する。

②商業・業務拠点

浦添都市軸と国道58号で構成され、業務施設や、ロードサイド型商業施設、近隣商業施設など商業・業務機能が集積しており、商業と業務が共存する複合型の都市形成を促進する。

③歴史・文化拠点

浦添大公園、浦添城跡や伊祖公園一帯は、浦添市の歴史と文化を象徴する機能を有し、浦添城跡

と伊祖城跡などの史跡と緑地空間を活かし、浦添の歴史文化を学び、語る場として整備・活用する。

浦添城跡一帯については、浦添グスク復元など世界遺産登録に向けた取り組みを促進するとともに、仲間地区、茶山地区、当山地区など周辺市街地や緑地を世界遺産登録に向けたバッファーゾーンとして位置付け、良好な景観形成を推進する。また、（仮称）前田駅や駅前交流広場については、本市の新たな顔として、周辺の景観に配慮した整備を促進する。

④国際交流拠点

沖縄国際センターを中心に、各国文化の相互理解と人的交流が日常的に展開されるゆとりのある空間の確保を図るとともに、（仮称）経塚駅の整備を促進する。

⑤文化交流拠点

国立劇場おきなわや浦添市産業振興センター・結の街などが立地し、沖縄県の伝統芸能の継承・発展に資する広域的な文化施設と浦添市民の交流活動拠点としての活用を進める。

⑥総合交通拠点

（仮称）浦西駅と沖縄自動車道とを結ぶ交通結節拠点を形成するとともに、交通サービス関連施設等の整った総合的な交通拠点を形成する。

⑦複合交流拠点

浦添都市軸と西海岸道路、地区内幹線道路が交差し、牧港補給地区跡地利用計画を先導する商業・業務の集積を図り、産業・経済活動の拠点の形成に努める。また、海上交通や陸上交通の交流拠点、本島中南部の広域的な交流拠点であり、本市の新たな顔として、良好な商業景観の形成を図る。

⑧暮らしの交流拠点

国道58号屋富祖交差点付近は、交通結節点の形成を図るとともに、生活利便施設や住宅等が集積した暮らしの拠点の形成を図る。

⑨人と自然の交流拠点

カーミージーや空寿崎周辺においては、豊かな海浜環境を活用し、環境学習の場や、市民の憩える海浜空間の形成を図る。

（３）都市の軸

①浦添都市軸

本市の東西を横断する浦添西原線から浦添ふ頭地先に至る浦添都市軸は、景観重要公共施設の指定に向けた検討を行うなど、ゾーンごとにさまざまな表情を演出する、本市の顔となるシンボルロードとして整備する。

②交通の軸

・広域都市軸

市域を南北に縦断する国道58号、国道330号、中部縦貫道路、沖縄西海岸道路等は、各ゾーンにおける都市活動を支援し、中南部都市圏の市街地を支える軸線として整備を促進する。また、港川道路からサンパーク通りを経て、浦添西原線に至る路線を広域的な東西軸として位置付け、整備を促進する。

・環状軸

沢峠石嶺線、国際センター線、（仮称）国際センター線延伸、県道153号線バイパス及び国道58

号宜野湾バイパスの環状道路は、整備を進めることで市域内の道路網の連結を強化し、市民の利便性の向上を図る。

・軌道交通軸

沖縄都市モノレールの延長路線は、沖縄国際センター、浦添城跡、総合交通拠点の主要拠点などを結ぶ新たな広域公共交通の軸であり、浦添グスク観光や浦添中心部と連携した浦添都市軸の形成、国際交流や沖縄の文化が感じられる緑の街道を形成する。

③歴史文化軸

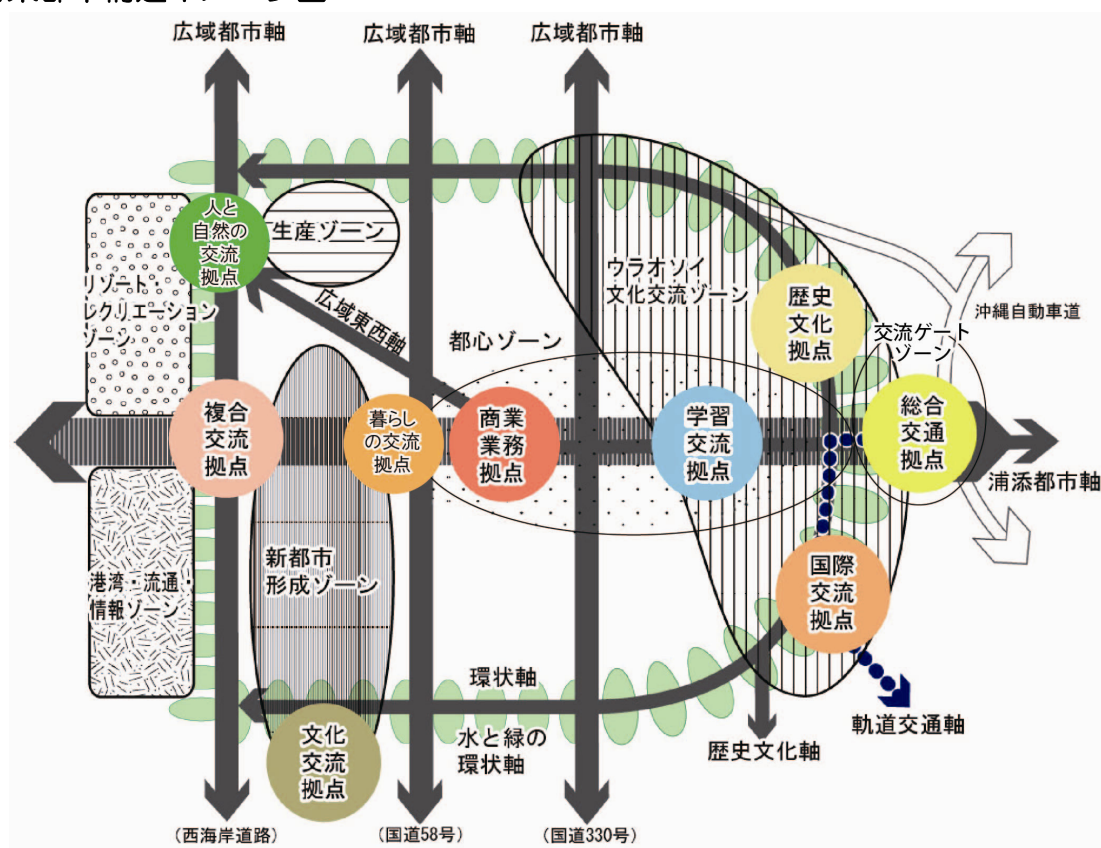
県道153号線は、浦添グスク周辺と那覇市首里地区をつなぐ歴史の道として、良好な景観形成や、国指定文化財中頭方西海道など歴史文化資源等を活用した連絡機能の強化を図り、歴史文化とのふれあいや地域間交流を促進する琉球歴史回廊を形成する。

④水と緑の環状軸

本市北側に位置する空寿崎から、シリンカー一带の緑地、伊祖グスク、浦添グスクまで続く緑の軸と、南側の安謝川から内間西公園、クニンドーの森公園まで続く緑の軸、西側の自然海岸域等を結ぶ馬蹄形の環状帯を本市の水と緑の環状軸として位置付ける。

水と緑の環状軸においては、河川、海浜における自然環境の保全や生物多様性の確保、良好な景観形成、環境学習や市民の憩いの場の確保等を促進するとともに、市民の生活を優しく包み込むクサティ森を保全・再生する。また、公園、河川、学校、道路等の主要な公共施設の緑化を推進するなど、水辺空間と一体となった安らぎと潤いのある緑のネットワークの形成を図る。

■将来都市構造イメージ図



■土地利用ゾーニング図

